
第 104 回関西スペイン語教授法ワークショップ(TADESKA) 開催の報告

★ Reunión del Taller de Didáctica de Español de Kansai

日時：2016 年 12 月 3 日（土） 10:00 - 12:00

場所：西宮市民交流センター B 会議室

担当者：長瀬由美

「講読 "Nueva gramática básica de la lengua española" Capítulo 16 "La preposición. La conjunción. La interjección," pp.163-174 (スペイン王立学士院、スペイン語学士院協会 (2011) 『スペイン語新文法基礎』第 2 部「語」2b 第 16 章「前置詞・接続詞・間投詞」pp.163-174)」

* Fecha y hora: sábado, 3 de diciembre de 2016, de 10:00 a 12:00

* Lugar: Nishinomiya-shi Shimin Koryu Center, Sala B

* Encargada: Yumi Nagase

* Lectura de la "Nueva gramática básica de la lengua española: Capítulo 16 "La preposición. La conjunción. La interjección," pp.163-174"

第 16 章 「前置詞・接続詞・間投詞」の講読

1. 担当者の意図

前置詞・接続詞・間投詞については、教歴が深まるに連れ、担当者の中ではその習得の重要性への認識の深化が進んできた。

スペイン語における、とりわけまずは前置詞、次いで接続詞についての豊かな知識とその正確で自在な運用は、論理的思考能力と思考そのものの質の向上に大きく貢献する。そして、我々の母語である日本語による言語生活にも反映され、人間の精神活動に重大な影響を及ぼすと感じている。

日本の大学専門課程でのスペイン語教育においてさえ、時間の関係から、基本的なもの以外の接続詞については、基本文法を終え、まずは 1 文が正確に構築できるようになった次の段階としての項目にならざるを得ない。間投詞については、*Buenos días!* などの挨拶を教えるのがやっとで、それ以外は野放しで自習に任されているのが現状であろう。そんななか、この 1 文を正確に構築できるために要となる前置詞が丁重に扱われていないと感じる。さらに、近年の痛ましいほどの母語日本語における助詞の支離滅裂な乱れを反映していると思われる、学生自身の前置詞の軽視、故に定着の悪さがある。外国語を教える教員は目標言語のみならず、母語に対する感覚も啓蒙して初めて用をなす、と信ずる。この問題意識に基づき、テキストに解釈を加えながら、前置詞の重要性に対する教員側のさらなる開眼と、授業内での位置づけと習得の徹底とを格上げすることを訴えることを、今回の「講読」では主眼に置いた。先生たちの学びが促進されるよう、

¹ ひとりっ子・鍵っ子で家族との言語経験のないまま、家の中で一人ぼつんと幼少時を過ごしたという背景をこういった学生には確認することが多い。語感が育つために大事な、失った十数年をどうやって埋めてやったら良いのかと焦るが、読書・交流を奨励し日々の授業での小さな一歩を進めるしかない。

楽しく疑問を分かち合えるよう努めた。

このまとめでは、担当者が当日たたき台にした、教育的観点から見たテキスト内の重要事項を取り上げて要約しながら、コメントや考え、補足、討論における参加者の反応などを織り交ぜて、当日の講読を再現する。

2. La preposición[前置詞]

近年の学生に特に感じるのは、大事な、読むべきものは名詞・動詞・形容詞・副詞とこれに準ずる、普通一音節以上のものであり、その間に適当に挟まっている、吹いたら飛びそうにちっちゃな「あれ」は無意味なものとして読み飛ばすという認識と態度である。「あれ」とは日本語の助詞そしてスペイン語の前置詞のことである。この基準によると、助詞は「が」「は」「に」「を」「の」、前置詞は *a*, *de*, *en* といった、一音節で、確かに小さいものしか選択肢にない。書くときにも、訳すときにも彼らの中ではその機能・意味・スペイン語のどれが日本語のどれに該当するのかについての認識が不当に軽い（場合が多い）²ことに気付く。

これについてテキストはまず、前置詞の「定義」で、前置詞は単独で成り立っているのではなく、「*TÉRMINO* [構成要素] と呼ばれる補語をとり、これを伴って統語群を成し、これを統語・意味論的に特徴づける、普通無強勢で、関係を示す機能を付与された複数の語の閉じられた1つの集合をなす」³とっており、まず単独で扱うのがそもそも前置詞の特性から離れる行為であることに気付かせられる。「統語的特徴」における描写⁴も、どこまでを塊として扱えばよいのかを明確にし、「意味論的特徴」の説明も、前置詞の担う意味（記号内容）を改めて味わわせてくれる⁵。

現在、スペイン語の前置詞には23個あるとして列挙してある⁶。うち、特別な性質を持った類

²スペイン語の読解には単語だけを拾い、あとは想像でその単語を自分が知っている範囲の話に再構築する者、いくつかの単語で文意についてのイメージができると精読から無意識に想像による文意の再構築に切り替わる者がいる。この想像力の間違った運用を認識させ、止めさせることは難しい、しかしこれを止めることができるのはまさに、前置詞（句）を丁寧に読み込む習慣を身につかせた時だと考えている。スペイン語作文においても同様、日本語原文の助詞に着目してほかの語との関係を把握することを丁寧にやる。

³ P.163. 以後、頁数は講読テキストのそれを指す。“DEFINICIÓN. La preposiciones constituyen una clase cerrada de palabras, normalmente átonas y dotadas de valor relacional, que introducen un complemento que se denomina TÉRMINO con el que forman grupo sintáctico y al que pueden caracterizar sintáctica y semánticamente.”（以下、すべて担当者訳。）

⁴ P.163. “a) La preposición y su término forman un GRUPO PREPOSICIONAL O PREPOSITIVO: *a México, con su ayuda, tras la casa*. b) Pueden ser término de preposición los grupos nominales y pronominales (*desde la casa, con ella*), los adjetivales (*pasar por tonto*), los adverbiales (*hasta aquí mismo*) y los preposicionales (*de entre los arbustos*). También las oraciones subordinadas sustantivas en sus diferentes variedades (*la noticia de que habían llegado, la incertidumbre de si estará vivo o no*).” [a)前置詞とその構成要素は前置詞群を成す：*A México*[メキシコに], *con su ayuda*[彼の助けを受け], *tras la casa*[家の後ろに]. b)名詞群や代名詞群 (*desde la casa*[家から], *con ella*[彼女と]), 形容詞群 (*pasar por tonto*[間抜けとしてみなされる]), 副詞群 (*hasta aquí mismo*[ちょうどここまで]), 前置詞群 (*de entre los arbustos*[茂みの中から])は、前置詞の構成要素になることが出来る。その様々な変種における名詞従属文(*la noticia de que habían llegado*[彼らが到着したという知らせ], *la incertidumbre de si estará vivo o no*[彼が生きているか否かという不確かさ])も同様である。]

⁵ P.164. “El significado de las preposiciones es relacional, pues ponen en contacto dos elementos: el element del que depende el grupo y el término de la preposición. En *Lo pintón con Inés*, la preposición *con* contribuye a indicar que el referente de su término (*Inés*) aporta la noción de ‘compañía’ al proceso que representa *pintó*.”[二つの要素、つまり、グループが依存している要素と前置詞の構成要素、に連係を取らせるのだから、前置詞の意味(記号内容)は、関係を示すものである。*Lo pintó con Inés*においては、*con*という前置詞は、その構成要素 (*Inés*) の指示対象が *pintó* が表す過程に「同伴」の概念をもたらすことを指し示すのに寄与している。]

⁶ P.164. ” a, ante, bajo, cabe, con, contra, de, desde, durante, en , entre, hacia, hasta, mediante, para, por, según, sin,

に挙げられた、教育的価値があると思われる情報は以下である。*HASTA* については前置詞の *hasta*[まで]と、「さえ、その上」を意味する同音異義の副詞を区別するように⁷、との注記に、白水社の現代スペイン語辞典⁸を確認すると、両者、前置詞に分類され、I. まで、II. 「副詞的に... 強調」…さえ、となっている。研究は日々進歩している。*VERSUS* については、英語を通じてスペイン語に入ったラテン語前置詞で、文脈によっては、*contra*[と逆に]や *frente a*[に対して]に該当し、*versus* より望ましいと考えられている⁹。関係副詞 *DONDE*[所] と *CUANDO*[時]の前置詞的・準前置詞的用法は、例えば *donde su madre*[彼のお母さんのところで]、*cuando la guerra*[戦時には]といった、ある特定の名詞群の前なら認められると言っている¹⁰。

その他の前置詞の基本的用法と機能では、*A* と *DE* ¹¹は最も頻繁に使われ、日本人学生らにもよく見られる、所かまわず（日本語の「の」に当たる）*de* を挿入する誤用についても注記で見逃していない¹²。ところがこの *a* の豊かな用法が、*de* の代わりに入るべき正しい前置詞が、現場では徹底されない。会場の教員らからも一様に、*a* などについては用法が多いから教えるのも難儀だ、一体どうしたら良いものか、とあきらめ気味の声が上がった。あり得る処方箋は、提案したように、ほかでもない、教員がまず各前置詞の用法の分類を隅々までよく知り、使われる文脈も含めた豊富な例文を与えることではないだろうか？

SOBRE[の上に、について、ぐらい]の注記に驚くべき記述があった。一つは、スポーツ用語独特の、*hacia*、*a* あるいは *contra* の代わりに *sobre* を使用するの是不正確だと考えられる、というもので、*tirar sobre puerta*[ゴールのほうへ投げる]、*falta sobre un contrario*[対戦相手への反則]が挙げられており、もう一つは、ある数からその一部が取られる、そのある数を表すのに *de* の代わりに使うのも推奨されない、つまり *Votaron a favor cinco de veinte participantes*[20人の参加者から5人が賛成票を投じた]のほうが *cinco sobre veinte*[20人につき5人]よりも良い、というものであった。*tirar sobre* も *sobre veinte* も意味が全く変わってしまう「不正確な」使い方、これが注記にならねばならないほど母国でのスペイン語も乱れているのか、との問いに5人いたスペイン語母語話者の教員も7人の日本語話者の教員も口々にコメントを交わしあい、問題意識が高まった様子であった。

前置詞のみならず、学生たちにぜひ豊富に身に付けて行ってほしい *LAS LOCUCIONES PREPOSICIONALES O PREPOSITIVAS*[前置詞句]についても注記で *basándonos en, con base en, sobre la base de, con apoyo en...*[に基づいて]などが正確な例として挙げられ、よく誤って使われるものに訂正がなされている¹³。

so, sobre, tras, versus y vía.”

⁷ P.164. *HASTA*. Hay que diferenciar la preposición *hasta* del adverbio homónimo, que significa ‘incluso’.

⁸ 1998年の改訂版と思われる。2005年購入の電子辞書のコンテンツカードからの調査結果。一方、小学館の「西和辞典」第二版（2007年）では前置詞と副詞に区別してある。

⁹ P.165. *VERSUS*の項参照。

¹⁰ P. 165. “Admiten usos preposicionales o cuasipreposicionales los adverbios relativos *DONDE* y *CUANDO* si preceden a ciertos grupos nominales: *donde su madre, cuando la guerra*.”

¹¹ P. 165. “*DE*. Es, junto con *a*, la preposición más usada.” [“*de*”という前置詞は、“*a*”と共に、最もよく使われる前置詞である。]

¹² P.166. “No son correctos algunos usos en los que *de* ocupa el lugar que corresponde a otras preposiciones, como *en ...*” [“…において見られるような、他の前置詞に該当する場所を“*de*”が占める幾つかの用法は正しくない。]

¹³ P.167. 前置詞句の注記を参照のこと。

3. La conjunción[接続詞]

La conjunción[接続詞]について知っておきたいのは、これが大きく 2 種に分類できるということであろう。一つは a) CONJUNCIONES COORDINANTES[連携接続詞]と呼ばれる、*María y tú*[マリアと君], *antes o después*[遅かれ早かれ]のように階級関係を付けずに要素を結ぶ (CONJUNCIONES) COPULATIVAS[連結接続詞], DISYUNTIVAS[分離接続詞], ADVERSATIVAS[逆説接続詞]、そしてもう一つは、依存関係を築きつつ要素を結びつける b) CONJUNCIONES SUBORDINANTES[従属接続詞]である。

ここで、枝葉と思えるが教育者にとって大事なことであるため、LAS CONJUNCIONES COPULATIVAS[連結接続詞]において、接続詞 *y* の項の *hiato*[母音分立]の記述について問題があると担当者の見解¹⁴を述べ、*Diccionario panhispánico de dudas* (2005) を参照しながら討議した結果、RAE による *hiato* の定義に沿っていないと判断されることが明白になった。

連結接続詞の中には *Conjunciones discontinuas o correlativas*[不連続あるいは相関接続詞]という項があり、*tanto...como...*[...と同じくらい多くの...], *tanto...cuanto...*[...ほどの...], *igual...que...*[...と同じように], *lo mismo...que*[...も...も], *ni...ni...*[...も...もない], *no solo..., sino también*(sic.)[...だけでなく...も(二つ目の "... は担当者が補足した。)]が挙げられている。

LAS CONJUNCIONES DISYUNTIVAS[分離接続詞]で最も特徴的なのは *o*[または]であり、用法において様々な機能を持つようになる。3 種に分類してあり、a) 排他的機能。提示された可能性のうちから一つが必ず選ばれる。この機能は不連続使用に固有なものである (*Llámame o a las cuatro o a las cinco*[4時か5時に電話ちょうだい。])。単純な用法においては、排他的な解釈とともに包括的なものも可能であり、そこでは示された選択は強制されない。例えば *En su mesa nunca faltaban las sopas especiadas o los suculentos asados*.[彼女の食卓には香辛料のきいたスープとか滋味豊かなローストが出なかったことはなかった。]。b) 排他的解釈は開かれた解釈に通じることがあり、示された選択肢はほかの可能な、中間の選択肢の例として提示される。こうして、*Tenía veinticinco o treinta años*[彼は 25~30 歳だった。]では、これら二つの間の何歳でもあり得ると理解させる。c) Equivalencia DENOMINATIVA[命名の類]。全く同じ命名機能で二つの表現を結ぶ。例えば *Cervantes o el manco de Lepanto*[セルバンテスすなわちレパントの片手男]や *Los médicos estudian la dispepsia o digestión lenta*.[医者たちは消化不良つまり緩慢な消化を研究する。]である¹⁵。前置詞 *o* の排他的な機能以外は要注意であることが分かる。

Las conjunciones disyuntivas discontinuas[不連続の分離接続詞] いうのも分類してある。DISTRIBUTIVAS[配分の]とも呼ばれ、交替をさし、特に正式な文脈で使われる。*Bien...bien...*[...かまたは...], *ya...ya...*[...であれ...であれ], *ora...ora...*[時には...また時には...], *sea...sea...*[...かあるいは...か], *fuera...fuera...*[...であろうと...であろうと]が挙げられている。

¹⁴ 参照サイト Real Academia Española, *Diccionario panhispánico de dudas* (2005) <http://www.rae.es/recursos/diccionarios/dpd> (アクセス日: 2016 年 12 月 23 日)の *hiato* の定義に基づく、テキスト p.168 の "pero si entre las vocales hay hiato en lugar de diptongo, se transforma en e, como en *diptongo e hiato, moléculas e iones*." の記述が不正確と判断される。

¹⁵ P.169.

Acercamiento entre las copulativas y las disyuntivas[連結接続詞と分離接続詞の接近]という項には、この二つは一見対立しているように見えるが、分離接続詞が包括的な機能を持ちうるのでそれぞれの機能間の接近を生むことになる、とある。例文 *Se puede entrar por esta puerta {y ~ o} por aquella.* は括弧内が *y* でも *o* でも[この門でもあの門をくぐってでも入ることができる。]となるであろう。全ての可能性を挙げ切らない例証と同等の列挙において一様に使われる傾向にあるともしており、*Borges, Cortázar {y ~ o} Sábado son grandes escritores argentinos.* [ボルヘスやコルタサル、サバトラはアルゼンチンの偉大な作家である。]を例に挙げている¹⁶。日本人教員参加者から、文脈に応じて変化自在の分離接続詞 *o* の包括的機能と本来の排他的機能との識別が難しいとの指摘があった。

LAS CONJUNCIONES ADVERSATIVAS[逆接の接続詞]については *pero*[しかし]、*mas*[けれど]、他の性質の逆接構文になるものとして *sino*[...でなくて...]が挙げられている¹⁷。

LAS CONJUNCIONES SUBORDINANTES[従属接続詞]は、意味と挿入される従属文の種類で分類され、8つの代表的なものが挙げられている。a)補完的な接続詞：*que*[と]；*si*[かどうか]、b)条件の接続詞：*si*[ならば]；*como*[ならば(接続法との組み合わせで)]、c)原因の接続詞：*porque*[なぜなら]；*como*[なので(直接法との組み合わせで)]、d)譲歩の接続詞：*aunque*[ではあるが]；*si bien*[たとえ〜でも]、e)時間の接続詞：*luego que*[した後で]、f)結果の接続詞：*que*[...なので]...と(なる)]、g)推断(ひきつぎ)の接続詞：*luego*[故に]；*conque*[それゆえに]、h)比較の接続詞：*que*[よりも]；*como*[...と同様に(...も)]

Locuciones conjuntivas[接続句]という項では、従属接続詞の大部分が実際は接続句であり、従って一語以上から成ると述べられている。よく使われるものを以下のように5つに分類している：a)《前置詞+QUE》：*porque*[なぜなら]；*para que*[(...する)ために]、b)《副詞+QUE》：*aunque*[だけれども]、*ahora que*[今や...だから]、*bien que*[だけれども]、*mientras que*[(...する)一方]...、c)《分詞+QUE》原因の接続句が当てはまる：*dado que*[...だから]、*puesto que*[...なので]、*visto que*[...なので]、d)《前置詞+名詞または名詞群+QUE》：*a medida que*[...していくに従って]、*de forma que*[だから...である]、*de manera que*[したがって...]、e)《前置詞+名詞+DE+QUE》：*a causa de que*[...が原因で]、*a fin de que*[...するために]、*en razón de que*[...という理由で]、*en vista de que*[...に鑑みて]。

LOS CONECTORES DISCURSIVOS[論証のための連結詞]については、機能と意味において接続詞に似ているため、伝統文法においては接続詞と考えられることが多いがそうではない、このため、副詞 *consecuentemente* は論証的な結びつきを構築するが、接続詞のグループには所属しないと明言している¹⁸。副詞的連結詞と接続詞の間には基本的に次のような違いが明らかになるとし、5つが挙げられている：a)連結詞はふつう強勢がある、b)コンマに挟まれて現れるし(...*y*, *sin embargo*, *te quiere*[そして、しかしながら、彼は君を愛している])、補語を許容するものもある

¹⁶ P.169.

¹⁷ P.170.

¹⁸ P.171. “En la gramática tradicional se suelen considerar conjunciones, pues a ellas se asemejan en función y significado; pero no lo son. Así, aunque el adverbio consecuentemente establezca un vínculo discursivo, no pertenece al grupo de las conjunciones.”

(*Además de médico, es abogado*[彼は医者である上に弁護士なのだ])、c)連結している文中の語順内で可動性を持っていることが多い：*Es poderoso, pero (con todo) no es (con todo) soberbio (con todo)*[強大であるが、(それにもかかわらず) 尊大ではないのだ]、d)両立できる意味の接続詞と共存できるがその前には置かれない：*Tienes fiebre y, en consecuencia, debes acostarte*[君は熱がある、だから、それゆえ、横になるべきだ]、e)強勢を持つ性質にもかかわらず、自立的でない。統語的な機能を全く果たさないし、独立した発話にも転じない。

談話の連結詞は接続詞の種類と関係を持っている部類にその内容によってまとめられるとし、3つに分類する：a)添加の連結詞：総和の意をもたらし、連結接続詞 *y* と両立できる：*además*[さらに]、*asimismo*[同様に]、*encima*[そのうえ]、*es más*[それどころか]、b)反論証的または逆接的連結詞：2項構文の2番目に置かれ、逆接の接続詞のように、反対あるいは考えの対比を表現する。一方は *sino*[...でなくて...]にあたる意味をもたらし (*en cambio*[その代わりに]、*al contrario*[反対に]、*todo lo contrario*[正反対]、*por el contrario*[反対に]、*antes bien*[むしろ])、もう一方は *pero*[しかし]に当たる意味をもたらし (*sin embargo*[それにもかかわらず]、*no obstante*[とはいえ]、*con todo*[それにもかかわらず]、*así y todo*[それでも]、*ahora bien*[さて]、*eso sí*[もちろん])、c)推断の連結詞：2項構文において、1つ目の部分の結果として2番目の部分の解釈を引き立てる。*por (lo) tanto*[そのため]、*así pues*[そんなわけで]、*entonces*[それなら]、*en consecuencia*[その結果]、*consecuentemente*[したがって]、*consiguientemente*[従って]、*por consiguiente*[それ故]は、結果の連結詞である。

4. La interjección[間投詞]

間投詞とは、一般的に感嘆のそれであるが、それ自身で発話を成すことができる一連の語である、としている。感情や印象を伝え、情緒的な様々な反応を浮き彫りにし、あるいは行動に仕向けるために用いられる。内容を描写するためには使われず、他にもたくさんの可能性があるが、挨拶をしたり(*¡Buenos días!*[おはよう!])、元気づけたり(*¡Adelante!*[さあ!])、乾杯したり(*¡Salud!*[乾杯!])、驚き(*¡Ahí va!*[なんてことだ!])または不快感(*¡Lástima!*[残念!])を表明したりといった、行動を完遂するのに使用される。こうして、*¡Chitón!*[しっ、静かに!]と言う者は静粛にすることを命ずる命令を描写しているのではなく、その命令を出しているのである、と言っている。

短くて、機能的な間投詞は初級の教室にもどんどん取り入れたい。ただ、以下には注意を向けたほうが良いかもしれない。

文法的な分類には2種類あることである：a) 本来の間投詞。名詞化された用法(*los olés*[喝采])は除き、間投詞(*epa*[おい]、*oh*[ああ]、*olé*[いいぞ])としてのみ用いられる。b) 本来的でない間投詞。名詞(*cielos*[まあ]、*hombre*[あら]、*Virgen Santa*[まあ、どうしよう])、動詞(*arrea*[うわっ]、*venga*[早く])、形容詞(*adelante*[どうぞ]、*fuera*[出ていけ])、副詞(*bravo*[いいぞ]、*bueno*[わかった]、*claro*[もちろんだ])、である。

何かを申請するために使用される名詞、名詞的群 (*¡Café, por favor!*[コーヒー、お願いしま

す！])も、評価を表す(¡*Chévere!*[すごい!])または呼びかけの用法(*Tranquilo, señor*[心配なさらないで])を持つ形容詞も、間投詞とは考えられない。

LOCUCIONES INTERJECUTIVAS[間投句]という2語以上でできたもの(*ahí va*[なんてことだ], *cómo no*[もちろんです], *en fin*[結局], *hasta luego*[またね]など)と、間投詞とその補語で構成された LOS GRUPOS INTERJECTIVOS[間投詞的(統語)群](*ay de mí*[哀れな私], *cuidado con el perro*[犬に注意])を混同しないように注意している。

間投詞的群については後に続く要素によって3つに分類してある： a)名詞群(¡*Vaya, qué sorpresa!*[わあ、なんて驚きだ!])。これは(*Eh, tú, sal de ahí!*[おい、おまえ、そこから出ろ])におけるような呼格もあり得る。b)前置詞群： ¡*Adiós a las vacaciones!*[休暇よ、さようなら!]; ¡*Lástima de comida desperdiciada!*[食べ物のもったいないこと!]; ¡*Caray con la mosquita muerta!*[ちえっ、猫かぶりめ!]; c)一つの文： ¡*Ojalá (que) gane el partido!*[どうか試合に勝ちますように!]; ¡*Así se muera!*[ああして死ぬがいい!]; ¡*Mira que eres bobo!*[まあ、君はお人好しだね!]

5. 最後に

9年ほど前から、*visitar el museo*の訳として「美術館」に”訪問する(動詞も変ではある)」とちらほら学生から聞くようになり、日本語に変化が生じているのかと慌てたが、ここ2~3年は1文ごとに助詞に一貫性のない奇妙な誤りがある学生が頻繁に見られるようになってきた。これには他動詞と自動詞の混同も大体セットになってくる。単語が適当に不適当な助詞を挟みながら並べられ、単語を拾うと文意はなんとなくわかるが、正しい文にはなっていない。ねじれ文をそれと特定できず、修正もできない。構文のもつれを解きほぐしていくと、実はもつれているのはそもそも思考であることが露呈する。これは作文だけに起こっているのではない。少し難度の高い文献の読解時に、音読のたどたどしさを聞いていても日本語で理解が追いついていないのが分かり、要約に苦しむ。*Zona andina* または *zona de Andes* を *zona de andina* や *zona Andes* とやり、このタイプにはなぜか正の転移が起こらない。私の盲点はどこなのか、このまとめを書いて少し見えた気がする。

まずは、辞書で各前置詞の項目を丹念に精読し、音読する時間を授業中にも取らなくてはならない。これで初めて生産的な言語活動に結びつけて行くことができる。最小の要素が頭の中にないと結びついて行かないのだから。

鍵っ子の言語発達の管理を i-phone と LINE に任せていてはならない。

言語教育に携わる教員が他の専門を持っていることは多い。そうした教員に対してこのような勉強の機会を与えてくれる TADESCA に感謝している。